

# 第24回 3D教育研究会

## 開催レポート —ダイジェスト—

### ご挨拶

日頃より、株式会社 KA 教育の教育活動にご協力を頂き誠にありがとうございます。

この度『第24回 3D教育研究会』を開催することが出来ました。

『自立して動き出す生徒を育てる持続可能な教育デザイン』と題し、東京都立武蔵高等学校・付属中学校の山本崇雄先生による講演が行われました。開催時のレポートを作成致しましたので是非とも周囲の先生方へご回覧頂ければ幸いです。

21世紀を担う生徒達にとって、『3D教育プログラム』が、少しでもお役に立てればと願う次第でございます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成30年8月吉日  
株式会社 KA 教育  
代表取締役 菊地 淳

## 第1部「講演会」

### 会長挨拶

3D教育研究会 会長 片倉 敦先生(順天中学校・高等学校 副校長)



皆様こんにちは。

足元の悪い中お集りいただき本当に有り難うございます。

今日は皆さん期待されていらっしゃると思います。指導要領も新しく公開され、これまでと何が違うのかと言いますと、何を学ぶのかといったコンテンツベースの学習だったのが、これからはどこまで出来るようになったか?、どのように学ぶのか?というような部分が追加された訳です。何故そのようなことになったかという

と、生徒が学びに向かう意欲や主体性を持っていかないと、これからの不確実な世の中において対応するのが難しいだろうと考えられるからです。その為には学ぶ意欲というものを育てていくことが大事になります。

今日は武蔵高等学校の山本崇雄先生の講演を聞いて勉強し、学んだことを学校へ持ち帰り、より良い教育に繋げていただければと思っています。

### 司会

3D教育研究会 副会長 樋口 元先生(京華女子中学校・高等学校 教頭)



ご講演いただく山本先生の紹介をさせていただきます。

昨年の第23回の研究会では山藤先生にご講演いただき大変好評でした。山藤先生は理科の先生でしたが今回は英語科の山本先生にご講演いただきます。山本先生は都立両国高校が前任校であり2017年より現職に就かれております。同じく2017年に未来教育デザインConfeitoという任意団体を設立され、“変化が多様化している現代社会において自立して行動できる子どもを育てる”というコンセプトで活動をされています。ご著書には『なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか』という

大ヒットした本があります。その他にも『はじめてのアクティブ・ラーニング! 英語授業』等を著書され活躍されています。

## 講演

### 『自立して動き出す生徒を育てる持続可能な教育デザイン』

東京都立武蔵高等学校・附属中学校 山本 崇雄先生

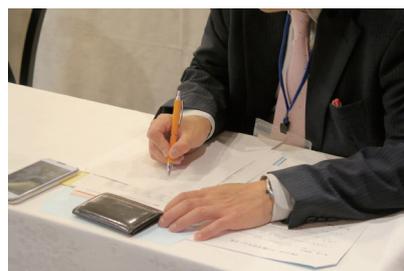
本日は宜しくお願いします。

昨年度に未来教育デザインConfeitoという任意団体を立ち上げまして、同僚の山藤と作りました。こういったデザインを発信する母体としましてこの名前を使っています。武蔵高校の教員ではあるのですが、学校自体がこういった活動を行っている訳ではありませんので、一応分けて使用しています。



#### 冒頭で自己紹介タイム

『これから皆さんで、自分の名前、そして好きなこと、好きなもの、気になっていること等、3つ絵を描いてください』(3分)



#### 隣同士でペアを作りジャンケン

勝った人が負けた方の人の絵を見て質問を作る。質問をして答える形で自己紹介。(3分)



中々難しいと思いますが、絵はそれぞれの個性が出ますので良いと思います。例えば次の時間にこういうの作ってくるように指示を出すと、結構凄いものを作ってきたりします。これで質問をもっと出させたり、それに答えて自分の自己紹介をしていくというような流れです。

参加者が回答することが可能なWEBサイトが用意され、スマートフォンを使用しながらの講演が始まりました。



「The Future of Work」 (<https://www.youtube.com/watch?v=HF-a-UmoRt4>)の視聴



これは今起きていることです。皆さんはどのように感じましたか？  
 子どもたちはこれ見て何を感じるでしょうか？  
 子どもたちはこれ見てどんな学びが必要だと感じるでしょうか？  
 その辺りのことを本当に真剣に話をしていかないと、子どもたちを不幸にしてしまうと思っています。

「VUCA」

VUCAな時代だと言われています。

Volatility (変動性) Uncertainty (不確実性) Complexity (複雑性) Ambiguity (曖昧性)

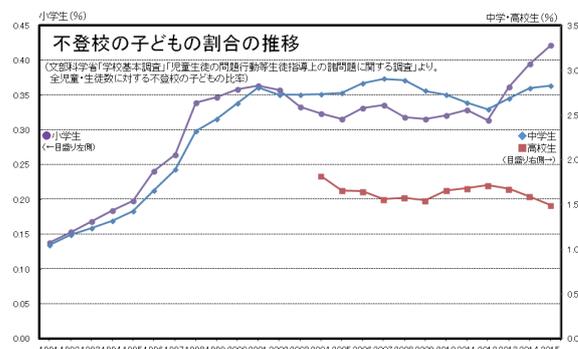
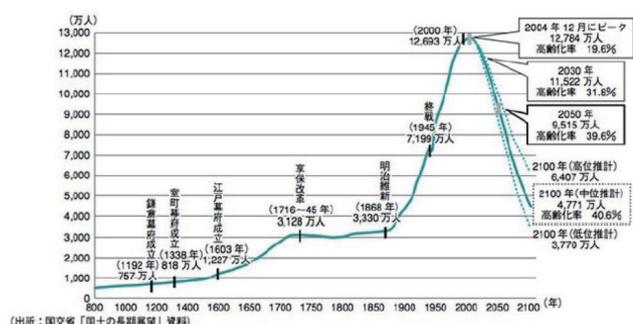
この中を子どもたちは生きていきます。この先もの凄い勢いで人口が減っていくという時代に突入します。

これまでは大量生産（同じ物を同じクオリティで同じスピードで作る）が求められてというところから、商品が個別化されカスタマイズされていく時代の中で、教育は本当にカスタマイズしなくて良いのか？ということです。

もう一つは不登校の数です。学校に行ける環境である先進国日本の中で20万人の子ども（小中高）がNOと言っていることです。

このこと自体に本当に目を反らせてはいけないと思っています。

子どもたちを教えるということから、私たちが発想を変えなければならないと思うことがいくつかあります。子どもたちに私たちが教えるだけでなく、子どもたちからも教わらなければならない（＝パートナーシップを組まなければならない）という時代になってきていると思います。



### 「Most Likely to Succeed (ドキュメンタリー映画より)」

- 『高校では50分の枠に押し込めて教室という枠に押し込んでいるが、これは教育ではない』
- 『124年前に10の大学の学長が何歳で何を学ぶかを全て決めた、これはもう時代遅れだ』
- 『そこでHigh Tech Highという学校を創った』
- 『もし宿題が何かプロフェッショナルな人、専門家に見せるようなもの、成果物を見せるようなものだったらどうでしょうか?』
- 『成果は全ての親、全ての地域の人、専門家が子どもたちの成果物を評価します』
- 『子どもたちは様々な形で表現をします』
- 『この学校に宿題は無く、子どもたちは自主的に必死に勉強します。』

この学校にはテストも通知表も宿題もありません。ですが結果的に大学進学率が凄く高く理数系の進学率も高いということです。「知識を覚える・単純作業ができるようになる・指示に従う」ということが今までの学校では中心となっている学校も多いと思います。しかし、これらは全てAIが出来るようになります。では、それを超える為にはどのようにすれば良いのか?ということを考えなければなりません。



### 「教員機能の細分化」

これまではTeacherで良かったのですが、色々な役割をしなければいけないということです。これからどこを目指すのか?ということ先生たちは決断しなければならない時期に来ています。Teacherの役はもちろん必要ですが、全員がその役をできないにしても、実は動画等でシェアが可能であったり全国の教え方の上手な誰かの動画を見ればそれで済んだりというようなことが実際に既に起きているのです。生徒たちはその動画の教え方と先生の教え方を比較するようになってきてます。ですのでそこで勝負する必要はないなと考えるようになりました。



### 「4つの本能的欲求」

- 1.物を発見したいという欲求
- 2.物をつくりたいという欲求
- 3.自らを表現したいという欲求
- 4.コミュニケーションへの欲求



## 「なぜ生徒が自律する授業へ変化したか」

英語の教員になって10年目に全英連という全国の大会で2000人の先生の前でモデル授業を行いました。この時は1人対2000人という授業で色々な先生方に評価もいただいたのですが、自分自身は凄くモヤモヤしたことを覚えています。

そして、あることがきっかけとなり授業スタイルを大幅に見直しました。

- ・3.11の震災後に色々な子どもたちや大人に出会い、ゼロから立ち上がる人たちの強さを感じたのと同時に、この子どもたちは大人が居なくなった時にどうになってしまうのか？と自分の生徒たちをリアルに考えました。自立をさせなくてどうするのか？と。
- ・イギリスへ勉強をしに行く機会があり、前述のような大勢の前で授業を行ったのですが、現地の方からは「教え過ぎてる」「そんなに教えてどうするんだ」と言われました。そこまで教えたなら子どもたちは失敗できないし学べないと。  
「教え過ぎたら自立しない」ということを強く思いました。

## 「生徒を自律した学習者に育てる英語授業」

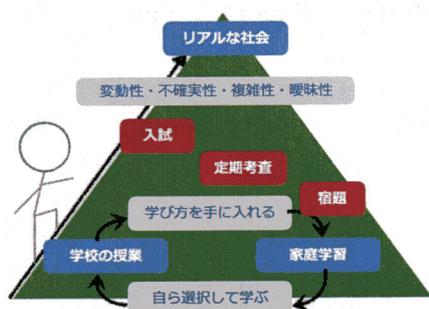
Everyone should (皆でやりましょう) ...

- listen,speak,read,write and move. (聞いたり、話をしたり、読んだり、書いたり、そして分からない時は動こう)
- enjoy making mistakes. (間違いを楽しもう)
- be happy! (みんなでハッピー)

## 「教室の学びをリアルな社会につなげる」

私の授業のイメージとして、まず学び方を教えます。

複数の学び方があれば自ら選択して学ぶということが出来ます。それが循環していくという考え方です。



学校の学びを繋げる時に阻害しているものが3つあります。

入試、定期考査、宿題。これらが大きく主体性を奪っています。特に宿題は学び方を折角手に入れ、色々な経験ができるのに、選択をする機会を奪い全員が同じことを同じペースで行うことを強制している訳です。



実社会での英語の使われ方	教科書の学び方
英字新聞や雑誌、インターネットの写真や絵、見出しから内容を想像する。	教科書の写真や絵、タイトルから教科書本文の内容を想像する。 ✓Guess Work
必要な情報を探すためにざっと読む	教科書本文の全体をざっと読む、聞く ✓Fire Place Reading ✓Jigsaw Reading ✓Eye Shadowing
読む目的を持つ	内容に関する「問い」を与える ✓Big Question
学び方を習得する	
わからない単語や文法があれば調べながら、詳しく読む	教科書本文を理解できるように様々な AL の活動を行う ✓ Jigsaw Reading ✓ Sight Translation ✓ Q & A ✓ Pairwork ✓Picture Drawing ✓Dictation ✓語いを学ぶ ✓文法を学ぶ
わかったことや感想や意見を誰かに話したり、書いたりする	教科書本文の内容を要約し、自分お感想や意見を加え話したり、書いたりする ✓Oral Presentation (Retelling)

リアルな社会で会社同士であったり顧客との関係を作っていく上での凄く大切な考え方なのです。特に日本のように無宗教だったりする場合は、お互いを思いやったり、考え方が違っていても折り合っていかなければならなかったり、相手のことを好きにならなくても良いけど協働しなければならないということを教えてあげなければなりません。その時に分かりやすいのが、皆がハッピーかということです。

### “Project based learning”

目的：理想の学校を作ろう 理想の教材を作ろう 盲目の人と商品を開発しよう  
手段：教科書の学習

### “For the Successful Group Work”

Everyone should be happy. Make a goal. Time is limited.  
上手くグループワークをする為にはハッピーであるかだったり、ゴールをやることであったり、時間は限られているので何が学校で出来て何が家で出来るかということを考えなければなりません。

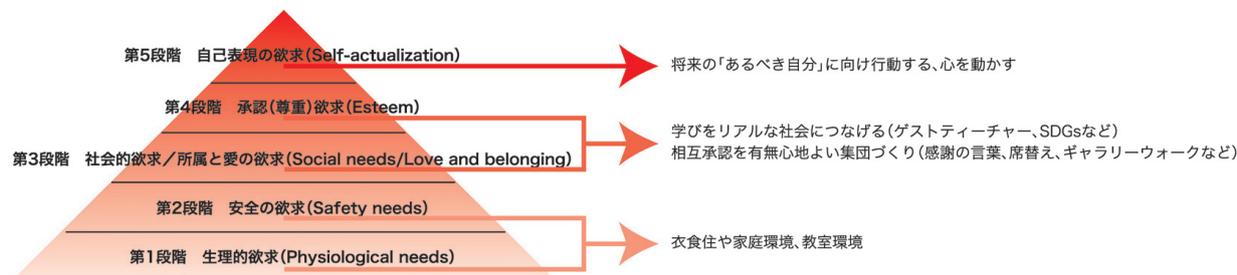
### “Public Relations”

Public relations should be defined as : relationship building activities based on "two-way communications"and"self-correction"that are supported by "ethics" to achieve the target...

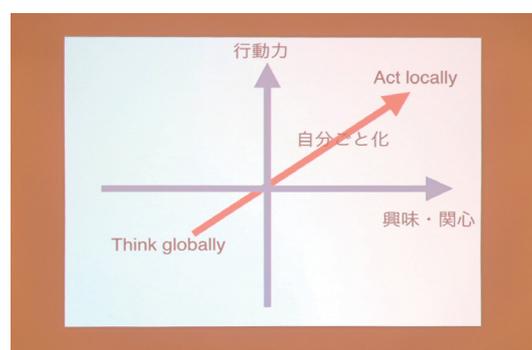
倫理観と自己修正能力と双方向性のコミュニケーションというのが会社が上手くいく為に大切なリレーションとなります。

## 「SDGsでリアルな社会の課題につなげる」

デザインでHappyな世界を作っていく >>> Design for All



学校の中で興味も行動力もない子どもに興味を持たせるのは先生の役目だと思います。その時に大切なことはリアルな社会や世界を見せることだと思います。さらに自分の身近なところではどうなのだろうか？世界に行くことは難しくても地元のことは出来るものです。こういうものを授業の中で育てていければと思います。



その為には何が大切なのか？教師が良き学び手になるということだろうと思います。

英語を使って世界の誰かをハッピーに出来るという例を私自身が生徒に見せ続けるということが大事だと考えています。

### 質疑応答

色々な手順を踏んで自由にやらせる基盤を作る準備をなさっていらっしゃると思うのですが、特に中学生を相手に、自分たちで考えて1時間の中で活動をさせるという動きが出来るようになるために工夫されていることはありますか？

これからの社会のあり方みたいなのはちゃんと話します。これからの学びで何が大切なのかということは投げかけます。理想の学校をつくらうといったワークも行います。1学期に何が大切なのか？ということをおぼせませす。学びの責任は君たち自身にあるという認識もさせます。50分の授業を自由に行って良いけど、どうしたら皆がハッピーになれるかということをおぼせさせて行動してもらいます。さらに、皆んなもっと出来るよね？そんなもんじゃないよね？というような励ましの声もかけ心掛けています。

定期テストなどはどのように行われているのでしょうか？

普段より授業で絵を描かせていますので、「分かったことを絵でまとめなさい」といった問題なども出します。また、授業の中で問題を作らせていますので、「この文章を読んで問題を3つ作りなさい」「それに対する模範解答を作りなさい」という問題も出します。長い文章を書かせたい時は、文章の中からオープンエンドクエスチョンを1つ作り、それに対する自分の意見を書きなさいということも行います。普段授業で行っていることをテストでも見るという感じですよ。

日本の評価の仕方はどうしても減点法になってしまいますが、先生の評価の仕方はどのような感じなのでしょうか？

テストに関しては減点法です。文句の言いようのない解答には5点、ちょっと何か欠けている場合には3点、的外れの場合には1点というように3段階くらいです。減点法だといえばそうですが、ここまで言えるようになったという捉え方をすれば加点法になるので、それも踏まえて生徒には説明します。

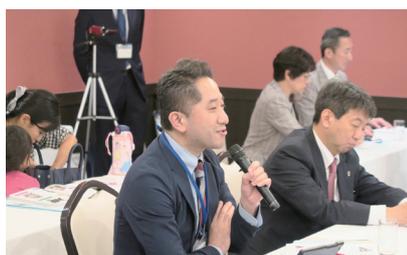
先生のクラスだけがそういった問題を出すのでしょうか？

他の先生とお互いに問題を作りますので、他の先生がつくる時とは問題の質が違うのですが、そこは折り合いをつけて話し合いもします。基本的に5クラスあって全員が同じテストを受けることになっていますので、自分が教えていない生徒にも出来るように、答えられることを想定しています。それを目指す為の授業をしましょうという思いで授業改革に踏み込むという感じですか。

私は世界史の教員なのですが、世界に開かれて生徒が考えていくということ。グローバルで考えてローカルで行動をするという部分が印象的でした。

卒業された後、生徒さんがどのように変わっていったかというような事例を教えてくださいませんか？

先生がどれだけ外に出るかというのが大切で、子どもたちの学びをどのように世界に繋げるかということでコネクションがたくさんあった方が良くと思います。どこかで新たに誰かと知り合ったりした時に、自分の授業にどう繋がるかということを常に考えるようになりました。子どもたちに興味が湧きスイッチが入るのです。先生が繋げることで何か変わっていくというのは凄く感じています。



## 参加者全員での記念撮影



# 出来る・大丈夫・大成功

**3D教育研究会**

2018.6.23 第24回 3D教育研究会 in 東京ガーデンパレス

**株式会社KA教育**

〒173-0012

東京都板橋区大和町12-12

03 - 6784 - 7675